
言う礼

by_sK

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

言つ礼

【Nコード】

N5992P

【作者名】

by s k

【あらすじ】

ある日突然、クラスメイトが死んだと連絡がきた。と思つたらその日のうちにそのクラスメイトに出会ってしまう。あまり仲良くなかった筈なのに自分にしか死んだクラスメイト（の幽霊？）は見えないらしい。自分、病んでるのかなあ…

0の暗闇（前書き）

自分が昔見た夢を小説化してみたりw
うん、全然表現力ないけど許してねっと

0の暗闇

気づけばあたりは暗闇だった。周りを見渡すが、何もなかった。ひたすら真っ暗である。

「なに、ここ」

そこに居た少女は焦る。さっきまで何をしていたのか、何処にいたのか、そもそも自分は誰なのか。全てが思い出せなくなっていた。

「…だれか」

怖いと思った。暗いところは怖い。闇は嫌だ。有るはずのものが見えないから。

「だれか…誰か、いませんか！」

泣き叫ぶ少女。続く無常の暗闇。少女は走りだした。恐怖から逃げたくて。明るいものを探して。

「う、ぐっ、えっぐ、うう、だ、誰かあ!!」

走り回ることには何の意味があるのかわからない。でも、こうしないと自分が壊れてしまう気がした。

「誰かあ、くっ、居ませんかあ!!」

少女は気付かない。本当は見えていることを。少女が何の恐怖もなく走り回れる理由を。

「あ」

あれは何だろう…？

「っ！」

少女が求めていた「光」を、暗闇の中で見つけた唯一の白光に、全力で走りだす少女がいた。

「――」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5992p/>

言う礼

2011年1月16日06時32分発行